

19 津田塾大学 学芸学部 英文学科合格 / 32 回生 2013 年(平成 24 年度)卒

「大学受験は、ひとりでは乗り切れない。」自分の受験を振り返ってみて私が一番感じることです。私が第一志望の大学に合格できたのも、周りの人々のおかげだと思います。

先生方には本当にお世話になりました。進学したいと思う大学が見つかったのも、2年生の最初の面談で担任の先生に勧めていただいたからであり、そのときから大学受験に対する意識が変わったような気がします。忙しいなか、私大の入試に向けて個別指導をしてくださった先生もいました。南高で出会ったどの先生も、生徒ひとりひとりのことをよく考えて非常に熱心に指導してくださる先生ばかりでした。後輩の皆さんには、まずは先生を信じてほしいです。授業では、先生の言うことをすべて自分のものにするつもりで話を聞く。週末課題など学校で先生が出してくれる課題をひとつひとつ確実にこなしていく。塾に通ったりするより、絶対に力がつきます。経験豊富な先生方を信頼し、先生から多くのことを学ぼうとする意識が大切なのだと思います。

友達の存在も大きな支えでした。私の親友は、12月にはすでに専門学校への進学が決まっていました。それなのに私の入試が終わるまで、業後も学校に残って一緒に勉強してくれていました。入試が近くなり不安なときも、いつも彼女が励ましてくれました。彼女がいたから私は頑張れたのだと思います。後輩の皆さんも、ぜひ友達を大切に、お互いに助け合いながら受験を乗り切ってほしいです。

大学受験を通してこんなに周りの人々の温かさを知るなんて、思ってもみませんでした。受験勉強は厳しいし辛いけれど、自分が努力している限り、必ず助けになってくれる人がいるのだと実感しました。後輩の皆さんも、人として大きく成長できるこの機会を大切にしてほしいです。

最後に、私は文Iクラスだったので、文Iに進む皆さんへ。「頭の悪い人が文Iで、頭の良い人が文II」という考えは絶対にしてほしくありません。もちろん、国公立大学を目指す文IIの人たちは偏差値がある程度高くなければいけません。しかし、だからといって文Iの人たちは出来が悪いという訳では無いと思うのです。私は1年間文Iクラスで過ごしましたが、高い目標を持って努力している人、尊敬できる人がたくさんいました。必要な科目に集中して勉強できたし、文Iクラスに進んで本当に良かったと思っています。文Iに進む皆さんは、科目数を絞ったぶん、それらの科目は誰にも負けないくらい磨いて「文Iだってやればできる。」という意気込みで頑張ってください。

20 南山大学 総合政策学部 総合政策学科合格 / 32 回生 2013 年(平成 24 年度)卒

受験勉強で私が意識していたことは、問題を素早く効率的に解くということです。定期テストでは、いつも時間がかかってしまい、結局最後の定期テストもほとんどの教科で時間がなくなってしまいました。このまま入試本番でも、制限時間内にテストを終えることができないのではないかと本当に心配でした。しかし、センター対策が入試直前にあり、それにより時間感覚が身につきました。センター対策が始まって、1週間後ぐらいに、センタープレテストという最後の模試があり、私はそれまでに何としてでもこの苦手を克服しようと思いました。センター対策では点数が低くてもいいから、とにかく時間内に終わるようにということだけを考えると、普段から文章は早く読むように心がけました。それにより、センタープレテストで良い結果を残すことができました。

また、私は古文の活用表が苦手で、古文自体の勉強を避けていました。あるとき、そのことを友人に話したら、とりあえず基本の古文単語を覚えたら、それだけでかなり違ってくるかと教えてくれました。それで、最初、コゴタロウという古文単語の本をただ読みました。しかし、覚えたつもりでも、数日経つと忘れてしまい、どうしたら忘れないかと、いろいろなやり方を試してみました。一番良かった方法は、1つ1つ丁寧に覚えるのではなく、1つ1つの単語と現代語訳をノートに1回だけ書き、その瞬間には全然覚えていなくても良いので、とにかく10分という短い時間の中で、できるだけたくさん書くことです。最初のうちは本当に覚えることができるのか疑わしく思うかもしれませんが、1日に10分でも、短期間で何回りもできます。5回まわりやると、定着した知識として頭に残ります。私はこの方法をやったときに、先生方が丁寧にやることよりも適当でもいいから何回もやった方が身

につくとおっしゃったことが実感できました。どの教科でもそうですが、ノートにきれいにまとめるのはあまり意味がないと思います。まとめると、やった感じがあるし、すごく頭に入ったと思うのに、2, 3日経つと何にも頭に残っていないということがよくありました。そのとき、私は自分の記憶力が悪いからだと思っていましたが、ただ勉強法が間違っていただけだったのだと思います。ノートにきれいにまとめて覚えるというやり方は定期テストでは高得点が取れます。しかし、大学入試では歯が立ちません。特に日本史では、まとめるのではなくワークを何回も解いて下さい。そして、点数が伸び悩んだときは、自己流を貫くのではなく、いろいろな方法を試したり、先生や友達にいい勉強法を尋ねるべきだと思います。

受験生の皆さん、12月、1月になっても、決して諦めずに頑張ってください。

21 立命館大学 政策科学部 政策科学科合格 / 32回生 2013年(平成24年度)卒

最初に、受験生として、心がけると良いことを書きます。

まず志望校について。志望校を決めるのは早いに越したことはありません。でも、中にはなかなか決められない人がいると思います。そういう人は一度きちんと考えてみてください。自分が好きな教科は何か。興味のあることは何か。将来どんな職業に就きたいか、などなど。そんな風に考えていってから勉強を始めても僕は決して遅くはないと思います。

次に授業について。とりあえず国語や英語などの予習の必要な教科は必ず予習すること。これが第一条件です。歴史は逆に復習が必要です。それと授業で分からないところはすぐに先生に聞くのではなくてとりあえず自分で考えてみる。そうしたら意外と分かることがあります。それでも分からなかったら、先生に聞く。このようなやり方が一番良いと思います。

次に補習やドリカム、朝学などについて。補習やドリカムは休まずに来ることが大事です。誰でも、補習やドリカムに行くのが、絶対嫌になることがあると思います。でも、それを乗り越えなければ合格できないと思います。そして朝学。これは本当に役立つと思います。朝に勉強するという点よりも、朝型の生活ができるという点で、とても良いと思います。

次に模試について。正直な話、模試はあくまで模試です。E判定やD判定が出ようが、いつも自分のスタイルを変えず勉強していれば何の問題もありません。そしてそういう人が最終的に合格すると思います。模試を受けるにあたって、1つだけ言えることは本番を常に意識するという事です。鉛筆、消しゴム、時計などを用意することはもちろんのこと、時間配分や目標の点数も本番を意識することがとても大事です。

ここまでいろいろと書いてきましたが、僕が思うに気持ちが一番大事だと思っています。センター試験や自分の志望校を受験する前、とても不安や焦りが出てくると思います。でもそこで自分は今までこれだけやってきたんだという自信みたいなものを持っていれば、絶対大丈夫です。必ず受かります。何とかあります。これだけは断言できます。

次に、自分の勉強の仕方や勉強の流れについて具体的に書きます。

英語はとりあえず夏休みにアップグレード(ネクステージ)を何回も飽きる程やりました。そして、その後(9月~10月)は授業の予習や、補習の予習を中心にし、少しずつ赤本を解いていきました。12月、1月はセンター対策。2月は再び赤本という流れでした。使った参考書はとても少ないです。でも本当に使ってよかったと思うのは、「基礎英文問題精講」という旺文社から出ているものです。これは周りでも使っている人はいましたが、自分は少し変わった使い方をしました。この参考書には問題と文がついていて、普通は問題を解くだけですが、自分は問題を解かずに、ひたすら文を口に出して読み、その後訳すという使い方をしてました。読むときには、ただ読むのではなく、文構造や文法を意識して読んでいました。この参考書を買ってやり始めてから英文を読むのが断然速くなったし、センター型の問題で点数が50点以上がりました。これは自分にとってすごくプラスになったので是非皆さんも一度やって見て下さい。それから自分は単語帳を自分で作っていました。授業、補習、ドリカム、

赤本、センター過去問などで分からなかった単語を一冊の小さいノートにまとめて、常に持ち歩いていました。

次に国語は、夏休みひたすら古語単語と助動詞、漢文の句形をやりました。それ以降は英語と同じです。古文、漢文については、予習が命です。1・2年生の皆さんは、この時期にサボると、3年生になって苦勞するので予習は必ずするようにした方がいいと思います。もちろん、3年生も同じです。サボったと思う人は早くやり始めて下さい。いつやる？今でしょう。現代文は授業をしっかり聞いて、丁寧に読んでいけば大丈夫です。焦らないことが一番重要です。

次に世界史ですが、自分は一番得意だったので、世界史のことだけは多めに書きたいと思います。まず、夏休みには、それまでやった範囲で最も苦手なところを中心として全体的に満遍なく復習をしていきました。その後は英語、国語と同じです。世界史を勉強する上で歴史上の出来事の横の繋がりと、人物の繋がりを特に意識しました。横の繋がりを意識するだけで、世界史はとてもすっきりします。逆に言えば、意識しないとゴチャゴチャして何が何だかさっぱり分からなくなります。でも、これは何世紀、あれは何世紀と丸暗記するのではなく、「これが△世紀だから、あれも△世紀くらいかなあ」という感覚で初めはいいんです。これをやっていくうちにぴったりと合うようになります。人物の繋がりにしても同じです。世界史では同じような名前が山ほど出てきます。しかし、国や時代をちゃんと意識して覚えていれば、初めは間違えても、そのうちに区別できるようになります。ここでも大事なことは意識することです。MARCH や関関同立を受験しようと思っている人で世界史を受験科目とする人は、間違いなく用語集や資料集レベルの勉強が必要なので、早い段階から勉強中に活用することをお勧めします。そして、記述式のところもあるので、難しい漢字も正しく書けるようにしておいた方が良いでしょう。

最後に、ここまで長々と書きましたが、勉強の仕方は、人それぞれです。自分に合ったやり方を見つけて頑張ってください。少しでも役にたったら幸いです。

22 名古屋大学 文学部 人文学科合格 / 32 回生 2013 年(平成 24 年度)卒

僕からは受験を通して個人的に思った、受験において大切なことを記していきます。まずは効率の話です。たくさん勉強をしているのになかなか効果がでないと思慮人が今後でてくるでしょう。その原因は他にもあるかもしれませんが、例えば問題への取り組み方です。問題集を買ってひたすら問題を解いて答え合わせして終わり…。この取り組み方は避けるべきです。これではせっかくの問題集も50%しか使いきれていないのと同様です。問題集を完璧に使いきるには、解説を読んで理解するだけでなく、重要な語句や頻出問題をチェックしたりすることが必要です。ちなみに僕の英語の長文問題への取り組み方は、問題を解いて、答え合わせをして、全訳と自分が考えていた訳を照らし合わせて(わざわざ問題以外の訳を書き出す必要はないです)、異なるところは考え直し、知らなかった単語や成句はチェックしていました。それからその日の終わりにその英文をもう一度読みなおし、チェックした単語や成句を自作の単語帳に書き出しました。この単語帳は持ち歩いて時間があるときに目を通していました。また英語が苦手な人は音読もした方がいいと思います。さらに言うと英語力が落ちないために英文は毎日読んでください。

次は模試の話です。模試ででた判定をそのまま受験の合否と考えている人はいないでしょうか？そのような考えは今すぐ捨ててください。あなたたちの合否を決めるのは模試ではなく、本番のテストなのです。模試の結果を全く無視しろと言うわけではないのですが、模試の結果はあくまでその時点の実力であり、本番のときの実力ではありません。本番までに努力次第で模試の結果とは全く異なる結果にもなりうるのです。だから模試の結果でくじけるくらいなら模試のやり直しをしてください。自分ができなかった問題を中心にやり直しをすれば、これほど力をあげる近道はなかなかないと思います。

次に精神面の話です。目標は常に自分の実力より1つ上に設定し、最後まで受験を戦い抜く気持ち

を持ち、困難にくじけない強い意思を持ってください。そうすれば受験を終えて人間としても成長できると思います。最後に、体調管理はしっかりしてください。ストレスとうまく付き合えるかも結果を大きく左右すると思います。皆さんが自分の目標を達成し、志望校へ合格できるよう、応援しています。

23 岐阜大学 教育学部 学校教育教員養成課程 国語教育講座合格 /

32 回生 2013 年(平成 24 年度)卒

私の受験勉強は教員になるために絶対に教育学部に入るという目標の下、スタートしました。皆さんもこれから模試で成績がなかなか上がらず悩むことがあるかもしれません。辛いと思いますが、皆さんには家族、先生、友達がついています。目標を持ちつづけて頑張ってください。それでは私の勉強の仕方について書きます。

どの教科も授業と補習で出てきたことは全て頭に入れるのだ、という勢いで臨むと良いと思います。そして、家で自分が本当に理解できているのか自分に説明しながら確認し、分からない場合は先生に質問しに行きます。そしてまた自分で解きます。先生の前では理解したはずなのに自分だけでやってみると案外できないことがあります。それは理解したつもりになっているだけなので、必ず復習をするのが良いでしょう。

国語は「現代文へのアクセス」「古文上達」「漢文道場」という問題集を繰り返しやりました。英語は毎日プリントを家で音読し、「英語長文問題精講」という問題集を繰り返し何度もやりました。世界史は大切な語を覚えるだけでなく、教科書を何度も読んだり、補習を利用して流れを覚えること意識しました。英単語、アップグレード、コゴタロウは小テスト前に勉強するだけだと小テストはクリアしますが、1日経つと忘れてしまいます。隙間の時間に自分のペースでコツコツと何度も何度も繰り返して覚え、小テストは最後の確認のようなつもりで臨むと良いと思います。模試直しもしっかり取り組み、できなかったところをノートにまとめるのも良いでしょう。その際、ノートにまとめることに満足してしまわず、隙間の時間に見直して下さい。

私のように家で勉強していると机の上で寝てしまい、3時間位あっという間に経ってしまう人へ。図書館をお勧めします。周囲が赤本をやっていると、悠長に寝ていただけません。図書館へ行くのが面倒くさくなってしまふ人。友達と絶対に図書館でしゃべらないと決めて一緒に行くのを勧めます。友達が頑張っているのに勝手に休めません。周りの環境で自分のモチベーションがすごく変わります。是非思い当たる人、試して下さい。受験生のうちは、補習や模試が続くと、受験勉強で本当に終わる日が来るのかなと思うことがあります。しかし、終わりは必ず来ます。終わってしまうと、あっという間の1年という感じがします。皆さんが、1年という期間限定の受験勉強で、1日1日を大切に最大限努力して、合格をつかみ、笑顔で新たなスタート地点に立つ日が来ますことを願っています。

24 愛知教育大学 養護教諭養成課程合格 / 32 回生 2013 年(平成 24 年度)卒

私は受験勉強に何か特別なことをやっていたわけではありません。授業の予習、復習が中心でした。予習の段階で分からないところをチェックしておき、授業で先生の説明をしっかり聞き、それでも分からないところは質問をする。そして復習を忘れずにする。こういったことを1つずつ丁寧に組み込むだけでも力はついてくると思います。私は、正直言って最初の頃は予習、復習で精一杯だったので、放課などの隙間の時間を利用して単語帳などを読んでいました。また、模試は受験勉強にすごく役に立ちました。分からなかったところはやり直しをし、解説をじっくり読んで復習することが大事です。模試の解説はとても詳しく、読んでいると実際の試験に出てくるようなポイントも分かるようになってきます。判定ばかり気にして、受けっぱなしにすることなく、何度もやり直すといいです。

次に、目標を早目に立てると良いと思います。目標があるとやる気が違います。私は1年生のとき

から養護教諭になりたいと考えていました。この学科があるのは中部地方の国公立大学では愛知教育大学だけだったので、「この大学に入りたい」とい目標を持っていました。私達の受験の年から2次試験に生物が加わり、苦手科目でしたが、「それでも養護教諭になりたい」、「この大学に入りたい」という思いがあったから、諦めずに頑張れたと思います。まずは基本を確実にして、繰り返し生物の先生に問題の指導をして頂く等をしているうちに、受験前には生物への苦手意識がなくなっていました。

また、私にとって、友達存在はとても大きかったです。友達の頑張っている姿を見ると、自分もやらなければならない気持ちになって焦りもしましたが、それが励みにもなりました。こういうこともあって、私は家で勉強するよりも、学校に残ったり、図書館に行って勉強の方が捗りました。先生方にもとてもお世話になりました。南高には頼りになる先生方がたくさんいらっしゃいます。困ったことがあったら相談してみるといいです。

最後に、勉強しているのに点数が思うように伸びなくて、焦る時期もあるかもしれません。しかし、結果はすぐに出なくても、後から出てくることが多いので、最後まで諦めずにやり抜いて下さい。

25 神戸大学 工学部 情報知能工学科合格 / 32回生 2013年(平成24年度)卒

私は友達の何倍も勉強しないと目線に立ってないことが分かっていたので、とにかく勉強時間をたくさん取ることに苦心しました。もちろん量より質だとは思いますが、勉強において成果を形として見ることは難しいので、時間という目安は数値として自分の自信につながりました。序盤において、部活動と勉強の両立は時間的にも体力的にもとても大変ですが、周りから遅れをとっていると感している人や周りとの差をつけたいと思っている人は少しでも早く受験勉強をするモチベーションまで自分を持って行ってほしいと思います。やる気の起こらないような日は近くの図書館へ行って同じように勉強に励む生徒から刺激をもらうことをお勧めします。時々環境を変えることはモチベーションややる気、眠気などをコントロールする良い手段なので、心に余裕のあるうちに試してもらいたいです。

勉強時間確保の面で心がけたことの1つは、早寝早起きです。部活動を引退した後でも、勉強に眠気はつきものです。夜遅くまで眠気と戦いながら勉強するより、日付の変わる前には寝て、朝早く起きて勉強した方が頭も冴えているし、効率もいいです。私は5時間睡眠と日付の変わる前の就寝、生活リズムを一定に保つことを心がけました。

そもそも受験勉強を始めるにあたって、何から手を付ければいいのか、とってしまう人もいると思いますが、まずは学校から与えられた課題、予習、復習をきちんとこなしていくことが大切です。そうすれば自ずと勉強する習慣が身につきます。更に初段階では英単語、文法、数学の基礎固めなどをして各教科に対する苦手意識をなくしておけば、今後につながるいいスタートをきれるのではないかと思います。

理系といえば理科や数学。ですが、やはり鍵を握るのは英語です。これは先生からもよく言われると思います。理系の人はいいたい理系科目が得意ですから、差をつける教科は英語になります。2次試験まで英語を使う人もそうでない人にも是非勧めたいのが英文の音読です。私の体験談としてですが、音読は、速読の力と、英文に並行して内容を把握する力を養う足掛かりになりました。音読するにあたって選ぶ英文はあまり難しいものでなく、自分で内容をすらすら理解できるもの、もしくは内容を既に理解しているものをお勧めします。毎日数分でいいので必ず続けてほしいです。

その他に理系の科目についてですが、基礎や反復が大切とよく聞いていたので、私は毎日広くどの教科も触るようにしていました。

最後に、私にとってこの1年はとても辛く、先が見えないものでした。自分がやっていることが正しいのか、これで成績が上がるのか、本当に不安でいっぱいでした。でも、家族や先生、クラスメイト、先輩や後輩も、皆が力になってくれました。ベタですが、“受験は団体戦”という言葉の意味を本当に実感しました。受験を控えている皆さんには、この1年を今までで一番辛く、今までで一番机

に向い、そして今までで一番充実した1年にしてほしいです。みなさんが自分の望む進路に進むことができますように。

26 名古屋工業大学 工学部 機械工学科合格 / 32 回生 2013 年(平成 24 年度)卒

僕が受験を終えて悪かったなと思う点は、志望校がなかなか決まらなかったことでした。よく言われるように、志望校を決めるのが早い方が合格する確率が上がると思います。理由は色々あると思いますが、自分が考えるには2つほどあると思います。

1つ目は目標があるかないかの違いです。2年の終わりの方から志望校別に模試の結果が出ますが、自分が志望校を決めたのは3年の夏頃だったので、それまで適当なところを書いていました。それで、模試の結果が返ってきてモチベーションは上がることも下がることもありませんでした。志望校を決めた後は判定が良くなったり、悪くなったりで、結果が返ってくる度にやる気が出ました。3年生の予定を見ると模試がたくさんありますが、意外とあっという間です。やはり、早い段階で目標を持ち、1回1回の模試を大切にすべきだと思います。

2つ目は大学によって入試科目の配点が異なるからです。大学によって異なる情報を早い段階から手に入れた方が明らかに有利に働くからです。

以上の2点から分かるように、受験はいかに早く取り組み始めたかが重要だと思います。同じ志望校のライバル達との勝負の日付(入試の日)はみな一緒ですが、スタートの日付は異なります。スタートダッシュを心がけて下さい。

次は良かったと思う点を書こうと思います。自分はいつも10時か、11時に寝ていました。故にあまり家で勉強する時間は取れませんでした。それで、正直なところ復習は全くできませんでした。しかし、予習や課題は欠かさずやりました。これは非常に良かったと思います。なぜならセンターは主に教科書主体の問題だからです。自分は理系なので理系よりの話になってしまいますが、正直なところ、センター試験に向けて、国語や英語をどうすればよいのか分かりませんでした。しかし、古語や英単語は重要なものが授業や課題で何度も出てきます。授業中に寝ている人は言語道断です。1回1回の授業や課題を大切にすることが、センター試験で得点を取るための最大のコツだと思います。毎回の授業で、少しずつ頭の中の単語の量を増やして行って下さい。

受験の1年は辛いことがあると思います。思うように成績が伸びずに、周りに抜かれてしまうこともあると思います。しかし、最後の最後まで粘り強く努力した人にしか、センター試験での結果は出ません。自分を信じて頑張ってください。

27 滋賀県立大学 環境科学部 生物資源管理学科合格 / 32 回生 2013 年(平成 24 年度)卒

僕は理系の道を選択しましたが数学がどうしても苦手でした。そのため、数学でセンター試験対策でも2次試験対策でも苦労しました。理系数学は数ⅠA、ⅡB、ⅢCとあり、範囲がとても広いので、苦手な人にとってはやりきれそうにないように感じると思います。僕もそうでした。本格的に手をつけたのは秋に入ってからでした。まずは当たり前ですが基本をマスターするようにしました。これは簡単に見えて数学の苦手な人にはきついことです。なぜなら、この段階では問題が解けるだけでなく、なぜ問題が解けるのか(問題の意図と解答方針)、というところまで理解する必要があるからです。これができれば発展問題にも手が出ます。しかし、全範囲でこれができるのなら、数学が苦手な人はいなくなります。数学が苦手な人は考えても、答えが出せても理解できない部分が存在すると思います。そこで諦めては受験で負けてしまいます。僕の場合、数列、指数関数、数Ⅲのほとんどの範囲がそうでした。そういう範囲は暗記で対処しました。理系科目なのに、暗記をするのは抵抗があると思いますし、きつい作業となります。どういう暗記をするかというと解法のパターンを丸暗記します。問題文を読んで口で解法を自分に説明できるようになるというのを目安として覚えておくといいです。あくまでも参考ですが、僕の秋の記述模試の数学の偏差値は43でした。そんな状態でも頑張り方

次第で、偏差値 50 以上には上げられると思います。ただし、これまで書いたことは、普段の授業、予習、課題等、学校のことをきちんとこなすということを前提としています。

もう 1 つ、志望校決定のことについて書きたいと思います。僕は生物が好きで物心ついた頃には生物学者になりたいと思って、人にも言っていました。それは高校 3 年になっても変わることはありませんでした。それで、志望校も生物関連のところに絞っていました。センターが終わるまで僕は三重大と高知大学を志望校として勉強してきました。しかし、センター試験で思うような点数が取れず、第一志望の三重大は C 判定でした。一か八か三重大を受験しようかと考えながらバンザイシステムで検索していると、滋賀県立大学の後期が B 判定と表示されました。気まぐれで滋賀県立大学のホームページを見ていると自分にやりたいことにぴったりの研究室を見つけて、一気に気持ちが揺らぎました。しかし、担任の先生との面談で滋賀県立大学の前期が C 判定だからまず受からないので A 判定の高知大学にするべきだと言われて、僕も高知大学にすると答えました。高知大学は 2 次試験が小論文だけなので家に帰って小論文の準備しなければと考えていたら、これまで 2 次試験対策で頑張ってきた数学と物理を使わないことに虚しさを感じて、翌日志望校を考える時間がほしいと先生に相談しました。その後、出願締切のぎりぎりまで先生との面談を繰り返しました。自分でも考え、家族とも相談して滋賀県立大学の前期を受験することに決めました。センター試験の判定は C 判定でしたが、記述模試とのドッキング判定は、D か E 判定でしたので不安の大きい中での出願でした。この出願ができたのは祖父の「人生には何度か勝負するべき時がある」という言葉のお陰でもありました。皆さんが志望校に迷ったとき、勝負するべきかどうか、後悔の少ない選択をするための参考になれば幸いです。

28 三重大学 工学部 電気電子工学科合格 / 32 回生 2013 年(平成 24 年度)卒

物事を進めるときに、目標を定めることは大切です。人間は目標を定めると、そこに向かってある程度頑張ってしまうからです。そして、その目標を達成したい気持ちが強ければ強いほど頑張れます。つまり、本当に行きたい大学を目標にすることが重要になります。そして、何よりもその学科の勉強をどの程度したいかが一番大切です。将来、自分はどのような勉強がしたいか、これを定めることにより進路について早くから考えることができ、より早く真剣に受験勉強を始められると思います。他にも、よく言われることは、私立大学と国公立大学の差についてです。例えば、授業料を比べてみると、おそらく私立大学は国公立大学の倍ほどになるのではないのでしょうか。自分は倍もする私立大学の学費を両親に払ってもらっては申し訳ないと思いました。その気持ちが志望校を目指す原動力になり、勉強に真面目に取り組むようになりました。皆さんも一種の親孝行だと思って頑張ってみてはどうでしょうか。ただし、あくまで自分のために勉強しているのだということを忘れないで下さい。

目標を定めることが大切だと言いましたが、周りの友人も目標となります。友人と競い合うことで、より勉強に意欲的になるでしょう。しかし、その逆もあります。例えば、クラスの中には遊びの誘いをする人もいます。自分の場合は、その人より上に行こうと、その人を反面教師にして頑張りました。よく受験は団体戦だと言われるのですが、このように誰かが誰かに何らかの影響を及ぼすことがあると思います。皆さんは悪い影響を出すことのないように頑張ってください。

学習方法を変えることだけが、勉強の効率を良くする方法だとは限りません。うまく勉強に集中するには、例えば周囲に誘惑するような物を置かないことです。携帯電話が代表的ですが、自分の場合はゲーム機でした。だから、受験が終わるまでやらないように、ゲーム機を箱に入れてしまったのですが、実はこの方法はゲーム機に限らず有効な方法だと思います。目が届かないようにしたり、簡単に使えないようにすることが重要です。とにかく、身の回りの物を片付けておくのが、効率の良い勉強になると思います。

受験の日が近づいても、特別なことをする必要はないです。これはある番組が調査したデータですが、入試の 1、2 週間は、新しいことを学ぶより今まで勉強して身につけたことを復習した方が結果

が良いそうです。このことから、やはり分からないことは先生や友達に聞いて早目に解決をしておくことが大切です。

これから大学を目指して勉強していく人が多いと思いますが、仮に最終的に良い結果が出なくても、あまり落ち込まないで下さい。どの大学に行くかではなく、その大学で何をするのが重要だということ覚えておいて下さい。

29 福井大学 工学部 情報・メディア工学科合格 / 32 回生 2013 年(平成 24 年度)卒

受験勉強をするなかで一番大切なのは、どんなに成績、模試の結果が悪くても諦めないことと、とにかく焦らないことだと思います。

まずは、とにかく基礎学力をつけることを頑張ってください。1・2年の基礎学力がいまいちでも、予習復習にしっかり取り組んで、1つ1つの授業を大切にすれば、最初どんなに成績が悪くても、必ず上がります。自分は夏休みが終わり、10月までずっと基礎をやっていたのですがそれでも間に合いました。家では、予習復習のあとに1・2年で習ったことを復習していくことをお勧めします。1・2年で習ったこと（特に暗記系は）忘れやすいので、このやり方ではなくても、1・2年の復習はやっておいた方が良いです。11月くらいから、自分とはとにかく学校でも家でもセンター演習をやっていました。最初マーク式（センター形式）の問題ができなかったのですが、センター形式模試の復習をこなせば分からないことも分かるようになり、だんだん慣れてきます。センターは慣れが必要なのでセンターまでずっとセンター対策でも損はしないと思います。ただし、記述が苦手という人はセンター対策だけでなく記述もやっておいた方が良いでしょう。そして、最後の模試である12月のセンタープレで合計点が低くても、ダメだと思わず、“まだ時間はある。”と思い、必死で頑張ってください。そこからでも点数は必ず上がります。本番では今まで通りにやってきたことをやって下さい。確かに緊張はするでしょうが、冷静になり、いつも通りにやれば必ず自己ベストが取れます。

大学受験は本当に厳しいです。それでも、決して諦めず自分ができると精一杯やり、第一志望の大学に向かって頑張ってください。